

平成28年度の学校評価

本年度の 重点目標	1 生徒一人一人の実態を把握し、実態に即した分かりやすい授業のための指導方法の工夫と改善 2 生徒の自己認識を深めるための支援の充実 3 委員会活動、生徒会活動、舎生会活動等を通した生徒の主体的な活動の促進 4 教科会の充実とともに、現職研修、職業種目研修、授業研修の積極的な実施 5 生徒の健康・安全に関する意識や社会的規範意識の向上、実践的な安全教育の推進 6 交流及び共同学習を始めとする校外における体験活動の充実		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 表彰の手順、展示、保管の仕方を考え、生徒の励みとなるようにする。 PTA 活動における保護者と職員の協力体制を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の大会等の受賞を讃え、表彰、展示の仕方、保管の仕方を検討し、賞状等を整理する。 PTA 役員の意見を取り入れ PTA 行事等の計画を立て、打ち合わせをしっかりと行い連携した PTA 活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 保管している過去の賞状等を整理し、保管場所、保管期間を検討する。また、展示の仕方を工夫する。部活動顧問、事務室等と連携して行う。 PTA 役員と担当職員が連絡を密に取り、早めに準備をして、円滑に PTA 活動が進められるようにする。収益金等 PTA の活動状況を職員へ発信し、PTA 活動の理解を深める。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい授業の指導方法を検討する。 教育活動における保護者と教員の協力体制を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「より生徒の力が育つ」を念頭において教育課程の編成ができるように教育課程の振り返りを行う。 学年主任や校務主任と連絡や調整を図り、保護者の授業参観や学年全体会への参加を呼びかけるなど、連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程委員会を中心に、教育課程の検討を行う。また、各教科会で現在の教育課程の見直しを行い、検討材料とする。 教科主任会をとおして、担当教科だけでなく、他の教科のことも知り、連携がとれるよう連絡・調整を図る。 内容の見直しや呼びかけ等、参加者を増やす工夫を行う。
教育支援部	<ul style="list-style-type: none"> 時代と実態に即した分かりやすい授業を検討する。 効果的な指導ができるように、情報機器の環境整備や情報提供をするなどし、使用しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究の取組で職業生活、道徳の年間指導計画や教材の見直し、作成ができるようにする。 校内の情報機器やパソコンの環境を整える。 本校が所有する情報機器を紹介する。 情報機器の使用例をまとめ、使用方法を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究推進委員会を中心に学年、教科と連携し、計画的に進める。 定期的に情報機器の点検、整備を行う。 最新の機器(タブレット等)や指導に効果的な機器を紹介する。 定期的に(前期・後期各1回)使用例をまとめ、紹介する。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 訓練や研修を通し、防災意識の向上を図る。 道徳教育を通し、生命に対する畏敬の念と人間尊重の精神を培う。 交流などの体験活動を通して豊かな人間性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練時や朝会等で生徒、職員に防災グッズの場所や使用方法など必要な情報を伝達し、防災意識の向上を図る。 年間指導計画を見直し、道徳の補助教材を作成する。 アンケートを通して、生徒を取り巻く環境把握に努め、問題の早期発見や対策を行う。 交流活動で経験したことや反省点を発表する場の設定や資料作成をし、多くの生徒と情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練や研修後のアンケートを実施し、部会等の会議で伝達したり、より必要な情報を把握し資料を作成する。 教科会Ⅲ(道徳)と連携し、本校の道徳教育について検討していく。 生徒会と連携し、アンケート結果を生かした対策を行う。 資料の活用や発表する場の設定や掲示方法に配慮し、生徒が分かりやすいように工夫にする。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身の健康の状態を把握し、各機関と連携しながら相談活動(カウンセリング)を充実する。 生徒、教職員の健康・安全に関する意識の向上と安全教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康状態や生活面についての状況を把握し、担任、学年職員に連絡を行い、必要な場合は関係機関の知見を活用する。 「ヒヤリハット」の取組や校内の危険な場所に注意を啓発するような表示を充実させる。 校内の危険な場所などを早急に調査、改善し、生徒、教職員の安全意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援部と連携を図り、生徒、担任、保護者、関係機関等との相談活動の体制を整える。 定期的に「ヒヤリハット」の用紙を回収したり、保健委員会の生徒が安全に関するポスターを制作したりして、健康や安全に関する情報を、全校集会や部会、朝会等で、生徒、教職員に伝え、情報を共有し、安全指導に生かせるようにする。

進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の実態を把握し、生徒の実態に則した進路指導を進める。 進路に関する意識の向上を図り、適切な進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業、学年活動、実習等を通して生徒の「社会で活躍できる力」を把握する。 今現在の本人、保護者の願いを聞くだけでなく、卒業生の事例等を踏まえ、将来を見据えた進路指導を行う。 事業所参観、人事との話、実習等を通して得た情報に、本校としての捉えを加えて、進路から情報を職員に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に依頼し、就労ビジョンを作成したり、評価票を活用したりして相対的評価も意識した実態把握を行う。 把握した実態に即した進路先を、幅広く開拓する。 教職員間で本校の進路指導の進め方を改めて確認し考え、共通理解をもって生徒、保護者、事業所に接することができるようにする。
寮 務 部	<ul style="list-style-type: none"> 部屋別校外活動の充実を図る。 舎生一人一人の実態を把握し、本人の自己認識や自己理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動内容について紹介し、写生に活動のイメージがもてるようにする。 寄宿舎指導員会で計画している実態把握やケース会以外にも気になる舎生についての話し合いを適宜行い、実態把握や支援方法について共通理解を図る。 担任や学年主任、生徒指導主事とも生徒情報を共有し、連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆとりをもって計画し、生徒の声をより反映できるようにする。 生徒の実態によっては、指導員から積極的に助言するなどの支援をする。 部屋担当が一人で抱えることがないよう、困り感を発信しやすいような組織作りに努める。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即した分かりやすい授業内容、指導方法、評価について 生徒本人の自己理解と自己実現に向けての自己認識を深める支援の充実について 委員会活動、生徒会活動、舎生会活動等を通じた主体的な活動の促進について 教科会、現職研修、職業種目研修の充実について 生徒の安全意識、社会的規範意識を高めるための教育活動の推進について 交流及び共同学習等の校外における体験活動の充実について 	